

校長先生の部屋だより

哲学ルームだより



この「哲学ルーム」は、生徒、先生の区別なく、共に学校スローガンである「人間を学ぶ」空間です。

なかなか哲学ルームもオープンできないですが、今日はオープンです。早速 3 年生 3 人と 2 年生 2 人が訪ねてきました。記憶を基にまとめてみました。もちろん正確ではありません。

—今日はどんなテーマを持ってきたの？

A：前は世界の始まりだったから。

—じゃあ、今日は「世界」って何か、を考えて見よう。

B：視点によっていろいろあると思います。自分中心に見るか、日本、世界から見るか。

—日本、世界から見るとはどういうこと？

C：自分が直接体験する世界は限られていると思います。でもテレビを見たり、他人から聞いたり、想像したりすることで、経験の密度は低くなるけれど、世界はどこまでも広がると思います。科学者は人類全体にそうした知識を伝える人たちです。つまり様々な主観が集まって客観が形成されるんです。

—神の視点から見た客観というのはない、ということ？

C：神の視点というのも神にとっての主観です。客観というものはありません。

—じゃあ、科学は何をめざしているの？

A：つまり、存在するものを発見しているのか、もともと無いものを創り出しているのか、という・・・

C：主観を離れた客観なんてありません。

D：客観というのは多くの人によって認められていることだと思います。

—でも多くの人が、今から見ると真実でないことを信じてきたということはあると思うよ。

C：だから主観の集合が客観なんです。

—でも人間は真実とか客観という理想を捨てないんじゃないかな。

D：客観ってどこから来たんだろう？

—面白くなってきました。ですが今日はここまでです。また来てね。

